

- I 私以外の何者も神としてはならない。
- II 偶像を作ってはならない。
- III 主の名をみだりに唱えてはならない。
- IV 週に一度は休日としなさい。
- V 父母を敬いなさい。
- VI 何をも殺してはならない。
- VII 姦淫してはならない。
- VIII 盗みを働いてはならない。
- IX 隣人のことを偽証してはならない。
- X 他人の物を欲しがってはならない。

人類の永い歴史の中にある一時期のために届けられた靈力を、神による最終的な啓示と見なしてはなりません。啓示というものは、時代と民族の理解力に合わせて届けられるもので、継続的かつ進歩的です。理解力の及ぶ範囲で少し進んだもの、ということですから。常に一歩先のものが届けられ、そこまで到達すれば、さらに次の段階のものを、というふうには、無限の梯子を登ってまいります。

なのに、かのユダヤ民族がまだ幼い段階にあり、しかもその当時の情況に合わせて届けられたものが、何もかも大きく事情の異なる時代に、どうして当てはまりましょうか。私には「一戒」しかありません。お互いがお互いのために、尽くし合うべし——これだけです。